

令和5年度第1回静岡市葵区地域包括支援センター運営部会

1 日時

令和5年7月12日(水) 14:00~15:30

2 場所

女性会館(アイセル21)第41集会室

3 出席者

部会員：木村綾委員(部会長)、辻本元彦委員、森直樹委員、佐々木玲聡委員、
紅林真佐代委員、美尾朱美委員、佐野敏幸委員、坂井美文委員

行政：葵福祉事務所高齢介護課 見城課長

高齢者福祉係 園田係長、森田主任保健師、杉本主任保健師、西澤主任主事
佐藤主事、成田主事

保健福祉長寿局 地域包括ケア誰もが活躍推進本部

地域支え合い推進係 杉田主任保健師、宮城嶋主任主事

4 事務局

葵福祉事務所 高齢介護課 高齢者福祉係

保健福祉長寿局 地域包括ケア・誰もが活躍推進本部

5 傍聴者

0人

6 議題

概要は以下のとおり

【城西地域包括支援センター】

美尾委員：四点ほどお願いしたい。昨年の研修実施計画と実施報告書も読ませていただいたが、まず一点目、権利擁護事業で、昨年は虐待の研修を行われていた。②-1にケアマネジャー対象の研修を実施予定とあるが、今年度はどのような研修を考えているのか。成年後見や消費者金融の問題、それとも前年度同様、虐待の理解を深める研修を考えているのか。どのような研修かを伺いたいのが一点目。二点目は、各包括でもあるが、④介護予防マネジメント事業で、自立プラン型地域ケア会議を年4回開催されている。大変素晴らしいと思うが、専門職を呼んで会議をされると思うので、専門職を揃えるのも本当に大変だと思う。どのような形で専門職に集まっていたいただいているのか。ど

のように集めているのか。三点目、生活支援体制整備事業で、具体的にどのような事業を進めているのか。地区社協の生活支援コーディネーターとどのような事業を考えているのか。四点目は、共通基盤のところで、チームオレンジ駒形事業は具体的にどのような事業なのか興味があるので教えてほしい。

城西包括 : 最初の質問、権利擁護事業の研修についてですが、昨年、市の高齢福祉係の方をお招きして虐待の講義をしていただいた上で、グループワーク等しながら、どういうことが包括や役所への報告のネックになっているのかを中心に研修を行った。それに基づき、このグループワークの中で、包括支援センターから出た養護者支援という言葉がケアマネジャーが今まで知らなかったという言葉が出たので、そこについてもう一つ学びを深めたいという希望があり、今年度は今のところ10月11月位に研修を開催する予定で準備を進めている。続いて、自立支援プラン型の専門職の集め方については、市の方である程度の下地を作っていたいただいているので、理学療法士協会や栄養士会に直接お願いをして派遣していただく方法と、あとは圏域の主任介護支援専門員、生活支援コーディネーターにもお越しいただいている。特に人を集めることでの苦労はさほどないかと思う。生活支援体制整備事業の生活支援コーディネーターの事業について、今年度、生活支援コーディネーター自身が新しい方でもあるので、一回打ち合わせをして、今はまだ情報のすり合わせをしている段階で、近々2回目を開催し、今度は圏域の地域支援の情報提供のすり合わせ、共有をしていく予定である。まだ具体的に今後どのように出すかは詳しく決まっていない。最後にチームオレンジについて、令和2年から3年掛けて、地域の方の認知症の理解を深めて、認知症になっても住み続けられるような形の事業を展開している。3年掛かりで専門職と地域の方とでチーム員という形で色々な協議を重ねて一年目は立ち上げ、二年目の令和3年度は、市民を対象に認知症の方への声掛けの勉強会等を行った。昨年度は、自治会長、民生委員、S型デイのスタッフを対象に認知症サポーター養成講座を行いながら、地域の方に認知症の方への理解を深めて、どういう街づくりをしていくかというような事業をしてきた。令和5年度に一度専門職はオブザーバーという形とするという話があったが、地域の方からオブザーバーというとなってしまう感覚があるので、一緒にやっていただきたいという声もあった。そういうことを言える関係性も構築されてきており、包括も一緒に取り組んでいる。今年度はもう少し広げて、S型デイサービスの参加者も含めた認知症サポーター養成講座や、自治会も半数くらいが入れ替わったので、もう一度重ねていく展開を考えている。地域で会話のある街ということで取り組んでいる。

坂井委員 : 同じような質問になるが、ケア会議について、先ほども栄養士協会などということだったが、その中に薬剤師は入っていないのか。

城西包括 : 入っている。薬剤師会を通じて圏域の薬剤師が参加してくださっている。

坂井委員 : ぜひ呼んでいただきたい。

【安西番町地域包括支援センター】

美尾委員 : 事業計画、昨年度の事業実績と見ると職員がだいぶ一新されていて、法人内での異動などがあったと思うが、これから事業の組立てはされていくのかが一点目。専門職を集めて自立支援プラン型地域ケア個別会議を年4回実施は、他の包括も人集めは大丈夫だという話があったが、その辺はどうなのかが二点目。

安西番町包括 : 職員異動のお話があったが、4月1日から受託法人が変わったので包括職員が全て入れ替わっている。前包括の計画も参考にさせていただいたが、今の包括職員は全く違う圏域から集まってきたので、もう一度地域との関係の作り直しから取り組んでいる。それなので、事業計画もかなり曖昧なものになっているが、これから関係を作った上で考えていく。二点目、専門職を集めた自立支援プラン型地域ケア個別会議について、先ほど城西包括からも話があったが、市が職能団体の連絡先をそれぞれ挙げてくださっているので、それを基にということと、圏域内で協力が得られそうな専門職の方に声を掛けさせていただいている。年4回の頻度に関してもやってくださいということなので取り組んでいるが、日々の業務の中での負担はかなりのものがある。

美尾委員 : これからなのだろうということが計画からも読み取れたので、がんばってほしい。

坂井委員 : ⑤在宅医療・介護連携推進事業で、静岡医師会内の在宅医療介護相談室との連携、および薬剤師会、医療ソーシャルワーカー等との連携となっているが、もう少し具体的に決まっていることがあれば教えてほしい。

安西番町包括 : 具体的にはまだだが、今までの経験で在宅医療介護連携相談室に非常に助けていただいていたので、また個別ケースの中で医療との連携で課題が出てくるようであれば、ぜひ助けていただきたいと思う。その中で課題があれば、一緒にケアマネジャーを交えて勉強をさせていただきたい。薬剤師、医療ソーシャルワーカーに関しても同じように考えている。

木村部会長 : 包括のノウハウをお持ちかもしれませんが、やはり法人が変わられたので、③の取り組み内容にあるように、各居宅の事業所を回って聞き取りをしていくところでは、まずは顔を作って、関係性を作っていくところをされるかと思う。ぜひそういった直接的な聞き取りの中から居宅のケアマネの抱え

ている課題や地域の状況をぜひまた共有していただければと思う。

安西番町包括：居宅は一通り回り終えて、聞き取りも終えたので、また下半期に居宅を回ってと考えている。今、居宅から集まった声を基に勉強会などが企画できればと思っている。

【城東地域包括支援センター】

美尾委員：①総合相談支援事業の①-2多職種専門職による「ほっとカフェお気軽相談会」は、具体的にどんな内容なのか。専門多職種と書かれていたので、多職種とはどういう方を想定しての相談なのか一点。もう一点は、権利擁護事業で、去年は住民向けに虐待早期発見予防セミナーをやり、報告書で大変有意義だったと書かれていたが、今年は何のような対象者を考えているのか。

城東包括：ほっとカフェお気軽相談会の多職種専門職について、この事業は4年くらい前から自宅ですべてミーティングを通して、地域の圏域の介護、医療の専門職の方たちといろいろな話をしていく中で、コロナ禍でもあり、相談会がいいのではないかという話になり、それに参加して下さっている薬剤師、理学療法士、主任ケアマネジャー、介護家族会の方、あと生活支援コーディネーター、そういった方たちに協力していただき、相談員となって地域の住民向けに相談会を開く形のものになっている。それと、虐待の早期発見予防セミナーの開催は、4年間継続し、色々な人たちを対象に行ってきた。去年は専門職だけではなく、地域にそういう目を持った方を増やそうということで住民向けに行ったが、それはそれでとても有意義だったと思う。今年はやはり虐待を最初に見つけてくれるのはヘルパーなのかなというところで、ヘルパーを対象にしている。今まで昼間に行ってきたが、なかなか介護事業所の方たちが業務の途中で抜けて来てもらうことが難しいので、今年度は古井先生にお願いをし、今年だけ夜にやっていただけることになった。今年はヘルパーやデイサービスの方たち向けのセミナーを開催予定になっている。

坂井委員：自宅ですべてミーティングを開催することについて、もう少し詳しく教えほしい。

城東包括：自宅ですべてミーティングは、高齢者が医療や介護を受けながら自宅最後まで暮らせる地域を目指すということで、地域の住民の方と医療介護の専門職の方たちと一緒に高齢者の課題を話し合っている。城東包括のテーマとしては、意欲低下した高齢者をどうやったら地域に繋げていくことができるのかというテーマで行ってきた。

坂井委員：まだ開催できてない地区もあるのか。

城東包括：城東圏域に二つ地区があり、安東はそういうことに賛同して下さる地区で、年に3回くらい継続してできているが、もう一つのお街の地区に関して

は、コロナの影響で人を集め辛かったのもあり、なかなかできなかった。やっと昨日第1回目ができたとところで、坂井さん、城東圏域ということですので、またお声がけさせていただきたい。

辻本委員 : 今のお答えの中にもあった安東地区でセミナーや相談会を開かれていると書かれていて、他のところと比べてもセミナーや相談会を実際に実施されて、テーマも自分たちで選ばれて力を入れていらっしゃるように思ったが、セミナーのことをもう少し詳しくお聞きしたかった。あと、金融機関の支店にも二つくらい回っているということと、あとすごく大変だなと思ったのは、井川地区の窓口も担当されているということで、この中では特殊な形なのでどのように運営されているのか。

城東包括 : セミナーに関しては、ようやく今年度セミナー安東相談会が地域の皆さんとの話し合いの中で決まり開催を始めている。内容に関しては、昨年の相談記録の中から課題だと思ったところをセミナーのテーマにしている。先日は、認知症は永遠のテーマでもあるので認知症サポーター養成講座や、介護保険の申請をするときに一番の原因となっているものとして痛みの訴えが多いというのが統計で出ているので、身体の痛みとの付き合い方を地域の理学療法士や薬剤師に来ていただいて講義をしていただく。それとお街は都会なので、高齢者もおしゃれで外を歩く時に歩行器を使いたがらない。閉じこもってしまう高齢者がすごく多いことに気が付いたので、福祉用具の展示会で触れていただく機会を設けようということで、セミナーのテーマにしている。あと、終活相談会などを本年度は考えている。去年は入所施設の選び方をやらせていただいた。それと、去年、金融機関に出向いて出張相談会を行ったが、金融機関からやってほしいということでやらせていただいたが、実際はあまり効果がなかったと私たちは感じたので、今年度は計画していない。井川に関しては本当に遠く、行くだけで二時間ちょっとかかるが、月に1回は必ず行って向こうの方と意見交換をして帰ってきたり、民児協に出たりしている。それ以外はやはり向こうの指定管理を受けている事業所のケアマネジャーをお願いしているのが現実である。

【伝馬町横内地域包括支援センター】

美尾委員 : 事業計画を読ませていただいて、去年から継続した事業が大変多く素晴らしいと思う。一点だけ、権利擁護事業のところ、身寄りのない人の支援PART IIを考えていらっしゃるということで、病院でも本当に身寄りのない方は困っているので、他人事とは思えないと思って見ていた。そういったことも去年から引き続き、去年の評価を踏まえて継続的な支援を計画されているのは大変素晴らしいと思う。

坂井委員：虐待研修も昨年行うという取り組みをしていて、とても素晴らしいなと思って見ていた。

木村部会長：民生委員がいない地区が5カ所もあるのはかなり大変だと思う。普段、民生委員の方々が活動の中で把握されているようなニーズであったものを、今回は包括が代わりにアンケート調査でやっていくのか。

伝馬町横内包括：民生委員がかなり高齢化して、いない地域が去年まで4カ所、今年から5カ所になってしまった。全部を一遍にはできなかったので、今年は横内町と太田町の2カ所を高齢者実態調査ではないが、民生委員たちが75歳以上の高齢者たちの家を皆さん回っているので、市の方から情報提供していただき一軒一軒回らしていただいた。困りごとがないか、困ったときに誰か相談する人がいないかとか、そういうことを聞かせていただいて、それをあまり重症化しないうちにできたら私達に連絡してもらう形で包括との連絡体制も作るというところでお話を聞かせていただいたら、結構皆さんご自分の連絡先とかも教えてくださいましたし、病気があるからこういうところが困るかもとか、あと地震とか何かあったときに私はここに逃げるとか、私は足が大変だからこのままいるよとか、そういう話も伺うことができた。これを少しずつデータを蓄積して今後の支援に活かしていきたいことと、静岡市にもそちらの方の連携をしていきたいと考えている。

木村部会長：民生委員がいないと本当に大変だなと感じる。あと一点、①包括活動紹介動画を作られたのか。

伝馬町横内包括：本当に自分たちの手作りで、介護保険を利用されている方の場面も、実際にご自宅にお邪魔している。地域と一緒に色々やっていきたいと思ったので、S型にも必ず電話させていただいているが、そこでの実際の場面を見ることで目に訴えかけるものが多いのかなと思っている。包括に学生、社会福祉士、看護学生が来るが、そういった方にも見てもらいたいし、あとは8月2日に認知症サポーター養成講座を横内小の児童クラブで小学校1、2、3年生を含め対象に行うが、そこでも紹介動画があったほうが相談業務とか包括とはなんぞやというところが実際わかりやすいかなと思っている。みんなで一致団結して一生懸命手作りしたが、内容は電話での相談や来所での相談、私たちが自転車で訪問に行って、訪問の中で例えば、トイレフレームがあった方が膝が悪くても立ち上がりやすいよというところの場面を一つ一つ作って、それを画面にまとめたものになる。

木村部会長：チラシとか、昨年度は漫画や冊子を作って小学校で配布したり、ホームページを作ったということもあったので、またそういったのも具体的に皆さんで共有できると面白いかなと思う。

【長尾川地域包括支援センター】

美尾委員：④介護予防ケアマネジメント事業の地区社協と生活支援コーディネーターなどと連携して、地域の居場所づくりや見守り、助け合い活動をというところで、他の包括だとこの辺の事業が介護予防マネジメントに入っているが、⑥の生活支援体制整備事業の内容かなと思うが、あえて予防のところに入れた理由を聞きたいのが一点。二点目は、③包括的・継続的ケアマネジメント支援事業の内容に自立支援プラン型地域ケア個別会議を行う（年4回）とあるが、比較的これは他の地区だと、④介護予防ケアマネジメント事業に入れている事業所が多いが、あえて長尾川包括が③包括的・継続的ケアマネジメント事業に位置付けている理由があれば教えてほしい。

長尾川包括：一番目の質問について、地区社協と生活支援コーディネーターなどと連携して、地域の居場所づくりや見守り、助け合いの活動の立ち上げ支援を行うところ、以前こちらの地域包括支援センターと地区社協の方たちと地域のマップを作ったので、こちらの見直しも兼ねてこういった事業ができればなというところであげさせていただいている。二番目の質問、なぜ③に自立支援プラン型を入れているかは、ケアマネが支援をするにあたってどのような形で支援をしていけばいいのかというところで、ケアマネへの支援という形でこちらに位置付けている。

坂井委員：認知症の相談件数が1.7倍と多くなっているが、高齢化で徘徊される方も多い地区なのかもしれない。訓練を行う目標があったと思うが、徘徊認知症高齢者搜索模擬訓練はどうなのか。

長尾川包括：模擬訓練に関しては、西奈地区で今、立ち上がっていて、今年の11月に訓練を実施する形で準備を進めている。

辻本委員：令和4年も令和5年も西奈図書館と連携されている。私も西奈図書館にたまに借りに行くが、図書の紹介を地域住民に行ったと書いてあり、紹介のコーナーみたいなものを作ってもらえればすごく嬉しいと思うが、そういうものはやられているのか。令和4年2月はやったということだが、母が90歳でたまに私が本を借りていくと一応ありがとうとは言うが、あまり興味がないみたいなので、高齢者の人も興味があるコーナーがあればすごく参考になるし、自分もぜひそういうのがあればありがたいなと思うので、どういう状況か教えてほしい。

長尾川包括：図書のコーナーは、2月に1か月間特別にコーナーを設けていただいて、ここで介護に関する図書を集めさせていただいた。介護だけではなくて食事のことや介護方法、終活問題に関するような介護にまつわる図書を包括支援センターの職員がピックアップして特設コーナーに置かせていただいた。

辻本委員：継続的にやればやっていってほしいです。図書館とも相談しないといけな

いのか。

長尾川包括：包括独自というよりも法人との絡みでもあるので、また本年度もできるようであれば継続して行っていただきたいと思います。

【服織地域包括支援センター】

美尾委員：一点目は、総合相談事業で、他の包括は包括内のスキルアップに触れているところが多いが、服織包括は他機関との連携をすごく頑張っていると思ったが、包括内の職員のスキルアップについてはどのように考えているのかが一点目。二点目は権利擁護の②-①警察との連携が書かれていて、本当に警察との連携に取り組んでいるのがわかるが、先ほども発見はヘルパーが多い話もあったように、地域住民やケアマネジャー、サービス事業所への啓発についてはどのように考えているのか。

服織包括：一点目の包括の職員のスキルアップについて、毎朝のミーティングでそれぞれの相談対応の事例について意見交換をして、今日こういうケースで対応するが、何か助言やこういった方が良いといった視点があるだろうかという意見交換をする場所は毎朝設けている。そこでそれぞれの意見を取り入れて対応をしていることが一つスキルアップになっていると思う。朝だけではなくて、その都度集まったときに相談についての話をする場所を持ち、皆さん対応をしている。二点目の警察について、去年はコロナで集まるのが難しいこともあって開催できなかったが、今年度はケアマネジャーの困りごとや聞きたい点、意見も含めて警察との意見交換ができたかと考えている。民生委員との会議や居宅のケアマネジャーと顔を合わせる場において、最近の消費者被害の情報などがあれば、そういう会議の場とか、そういう傾向があるという情報が入った際にその都度お伝えしている。

美尾委員：ぜひ、また地域住人やサービス業者への啓蒙などもお願いできればと思う。

坂井委員：シニアクラブで認知症サポーター養成講座を開催したが、成果がしっかり出ていたのか、これからなのかを教えてほしい。

服織包括：認知症サポーター養成講座は、地域の方から一昨年希望があり、コロナで開催できなかったが、去年開催できた。講座を受けて内容の把握はされたかなというところ。その次のステップ、段階に繋げるにはまだ至っていないが、そういう情報については学んでいただけたと思う。

【千代田地域包括支援センター】

森委員：⑦認知症総合支援事業で、GH連絡会の継続と書いてあるが、個別のGH連絡会なのか、こちらの地域包括の圏域の中でGHが集まって共同の連絡会を作るのか教えてほしい。

千代田包括：GH連絡会について、元々GHの事業者からGH同士の横の繋がりを作る機会がほしいというところから、まず最初は包括が主体となってそういった会議を開催させてもらった。今年度からGHが主体となってこの会をやっているながら、包括が後方支援を行っていく体制で今やっている。

佐々木委員：年2回の多職種研修会と、溝口病院に講師を依頼している研修会について、内容を教えてほしい。

千代田包括：前年度から行っているが、昨年度溝口病院の寺田先生を講師として精神障害の研修会を行ったら、地域柄精神疾患を持たれている方も多く、かなり好評だった。今年度2回目となるが、開催させてもらう形になっている。

佐々木委員：千代田圏域は開業医の包括への対応、協力がなかなか厳しい地域だと聞いている。引き続き寺田先生にもお願いしたい。あと医師会でも包括に協力していただける医療機関をご紹介できればと思う。

紅林委員：④介護予防ケアマネジメント事業で、S型デイの無い地域に対し運動教室の開催とあるが、S型デイがない地域はどれくらいあるのか。関心度の高い住民を巻き込んで1回でも開催できるようにということは、まず内容かと思うが、その点についてどうお考えか。

千代田包括：S型デイサービスは、千代田東学区に4カ所、千代田学区に1カ所ある。今年度は、千代田東学区の南沼上の地域を対象として運動教室の開催を計画している。ここの地域に対しては昨年度も一回行い、参加してよかったという声がかかなり多かったので、今年度もシリーズ化して4回くらいやらせてもらい、意欲的な方もかなり多いので、今後、生活支援コーディネーターも巻き込みながらやっていく計画を立てている。

紅林委員：とてもいいことだと思う。やはり元気なうちから一人暮らしの方が参加しやすいように、まず身体を動かすことがすごく大事なことだと思う。大変だと思うがグループ作りのきっかけができるような働き掛けを是非お願いしたい。

【城北地域包括支援センター】

森委員：認知症やフレイル予防に具体的に取り組んでいて、いい取り組みをされていると思う。気になったのは配置職員が5名で、市の定員が7名を予定しているところで2人減なので、とても大変な思いで業務をされていると思うが、人員が入る予定があるのか教えてほしい。

城北包括：配置に関しては、募集を掛けさせていただいていて、法人内の異動もお願いしているが応募も来ない。それから、配置異動も母体の法人自体がどこの部署も人が足りないのでできない状況で、お恥ずかしいが包括の運営自体が危機的な状況に陥っているのが現状である。そういった中でも最低限のことだけはしっかりやっていこうとなるべく取り組ませていただいているが、今後

も人員が正規の数配置されるのかどうかは見通しが立たない状況である。

木村部会長：苦しい実情というところだが、他にこの事業計画で何かあるか。

紅林委員：私も人員のことが気になった。本当にご苦労されていると思う。地域での見守り合いはすごく助けになると思うが、あまり無理をせずケアマネが抱え込み過ぎると、それでなくても大変なのはわかるので、ぜひ他職種の方にできるだけ協力を求める形も取りながら頑張っていたきたい。

木村部会長：包括だけではできないところを少し協力していただきながら地域で体制ができるといいと思います。

【藁科地域包括支援センター】

森委員：⑥生活支援体制整備事業の買い物や移動支援の活動・団体等の後方支援を行うというところで、藁科地区は割と山間地にあるので、買い物難民の支援が必要だと思う。具体的にどういった買い物や移動支援の活動団体があるのかと、後方支援はどういうことを行うのかを教えてほしいのが一点。もう一点が、昨年9月に豪雨災害があって山間地の電線の鉄塔が壊れた地区があったが、おそらく災害があると孤立化してしまうような地域かなというところもあり、実際の9月の被災状況と、何かそれに対する備えが新たに生まれたのかどうかを教えてほしい。

藁科包括：買い物支援については、一つは移動スーパーの業者が入っているので、その情報提供などを地域の方々にしている。もう一つは移動支援という形で、生活支援コーディネーターも入り、当圏域にある社会福祉法人が車両を貸し出して、地域の運転ボランティア、送迎ボランティアが同乗して高齢の方々を買い物に連れていくといった活動を、地区社協を中心に団体を立ち上げ行っている。その運営会議などに参加して助言をさせていただく形での支援を行っている。同じようにそういった活動があるということを地域の方にお知らせする活動もしている。災害については、鉄塔が倒れたのはこちらの地域ではないが、圏域の水見色で道路が崩落して一時的に遮断されて孤立化したことがあった。そうすると、生活も介護サービスも途切れてしまい、一時的にはどうしようという話もあったが、結果的にはすぐに道路が復旧してなんとかなった。そういった災害のときにどういったことができるかとケアマネとも話したが、ケアマネが事業所まで辿り着けない事態も想定し、今後、地域の方々とどういった連携ができるかというところを民生委員やケアマネとの関わり中で話ができればと考えている。

佐々木委員：⑤在宅医療・介護提携事業の取り組み内容で、圏域内の医療機関の医師や看護師と介護支援専門員との意見交換はどこも書いてあるが、藁科だと地域医療をしているようなりソースが少なく、具体的に名前を言っていたきた

いが、病院との連携はないことはないと思う。いわゆる開業医とか地域医療の訪問看護はどういう所とどんな感じの意見交換をしているのか教えていただきたい。

藁科包括 : 医療機関は大川診療所しかないので、大川診療所の医師にもご参加いただいて、訪問介護の事業所、訪問リハビリのスタッフ、そういう方々にご出席いただいて、情報交換やこういうとき困るよね、みたいなことをお話させていただいている。去年は、当圏域にあった病院が一カ所移転してなくなったので、その影響がどのくらいあるかというような話をさせていただいた。今年度は少しまた視点を変えて、受診ではなくリハビリを視点に情報交換をしようと思っている。

紅林委員 : 今年度新たに清沢地区に配置される健康相談員とも連携して活動を行うということだが、健康相談員はどのようなもので、どのような活動を考えているのか。

藁科包括 : 中山間地振興課に町内から、清沢地区は長らく医者、医療機関がない地域で、圏域内の病院が移転したことで今まで掛かっていた医療機関がだいぶ遠くなってしまい医療がない地域になってしまった。健康面のフォローが非常に心配な中で、中山間地振興課が予算分けをして健康相談ができるような人を配置する事業で、人を雇って配置する計画が進んでいた。そういったやり方がなかなか難しいということで、今は健康相談を請け負ってくださる事業者に委託のような形で、相談ができる個室になるようなバンで定期的に回って、相談会を7月8月に試験的に行い、それが好評であれば定期的に開催していく活動になっている。企画の段階でどんな形のものがいいのか、どんなニーズがあるのか、打ち合わせには参加させていただいて、こんなやり方がいいという話をしたり、そういった形で関わらせていただいている。

【美和地域包括支援センター】

森委員 : 令和4年度の成果に台風被害が出たと書いてあるが、実際どんな被害が出て、包括や地域で今後の備えの話が出て対応していることがあれば教えていただきたい。

美和包括 : 内牧の内牧川が決壊して、幸庵新田という町内と内牧はすごく広いが、内宮町や山に接しているところと駿府学園のあるちょうど川の水が滞留してしまったところに床上浸水が1メートルを超えてしまう被害が広く出ていた。包括から町内会長すべてに連絡をし、困っている高齢者がいないか確認をしたところ、困っている高齢者が1人いた。自立はしているが、足に障害があって片付けが身体的に難しいと聞き、包括と法人と相談し、法人職員と私たちと4人で土砂の掻き出し作業を2時間程度行った。必要ならショートステイ

とか短期的なところをという話をしたが、自宅の2階で生活ができるということだった。その後、ボランティアセンターも西ヶ谷の運動場にでき、ボランティアの方がみえてあつという間に片付き、その方は今も自立して地域で生活している。この地区も結構被害が出た地区なので、会議のときに地域課題として災害のことがあがってくるかと予測し、内宮町で自宅ですべてミーティングを開催する計画をあげた。先日1回目の会議を行った際にはそういう話は少し出たが、2階に移動して大丈夫だったということで、地域課題として困ったけど他のことが大きく出ていた。住んでいる方の様子と私たちが予測することにやはり違いがあると実感した。まだ包括としても対策までは取り纏めができてないが、同じようなことがあれば、また今回のような経験を活かして地域にアプローチしていくことは考えている。あとはBCPや計画も今後考えていかないとならないと思うので、それも参考にしながらやりたいと思う。

佐々木委員：美和地域の特に安倍口団地関連問題に少し興味があつて聞きたい。特に5の精神保健分野の関係者との連携を強化する、安倍口団地支援連携会議から派生しというところはなんとなく小耳には挟んでいて、皆さんご存知かもしれないが、少し教えていただきたい。

美和包括：10年位前に安倍口団地の支援者、特に民生委員が高齢者の支援をするときに多問題を抱えている方や色んな方を支援するのに大変だという声があがり、せめて支援者だけでも連携がスムーズにいくように関係作りをしてほしいという声が民生委員からあがった。この時は年に2回くらい集まり会議をして、支援者が民生委員と自治会の関係者、県営、市営の安倍口団地の住宅を管理している公社、生活保護担当の生活支援課、ケアマネジャー、そこに鈴木先生にも来ていただいて、長らく参加していただいている。関係者間の関係作りは割とできてきて、この中で民生委員から障害を持っている方の支援の繋ぎ先がわからないと困るという話が出てきて、高齢者は包括があるから包括に繋げたり、高齢者の繋ぎ先が入ってくれているが、障害が具体的に見えにくくて困るという話があった。支援連携会議に障害分野の方を呼んでグループワークや講義形式の説明をしてもらったが、なかなか住民の方と障害分野の繋がりがやってもできない実感があつた。障害分野の方はものすごく忙しいイメージがあり、連携しようと思って電話しても結構いらっしやらないことが多く、どうしたらいいかと考えたときに、相談会を設けて来てもらい、もし相談者が来なくても支援者だけまともればいいじゃないかと考えて企画をした。障害分野の委託相談を受けている機関と、暮らし・しごと相談支援センターの方が協力してくださることになり、3月から検討会を重ねて今年の8月1日に第一回を企画し、今準備をしている。啓発活動も安倍口団

地福祉の相談会という形にしているので、安倍口団地の方に限って啓発はしているが、どうなるかはやってみないとわからない。

佐々木委員：相談機関は民間なのか、公的機関なのか。

美和包括：障害の委託相談ということで、静岡市が委託をしている。

佐々木委員：半分、公。地域包括みたいな感じか。

美和包括：そうだと思う。

佐々木委員：高齢者だけではなく、自立支援医療や精神疾患の方が地域包括支援センターに相談が行ってしまうわけで、介護保険ではない人たちの支え方の一つのモデルとして大変参考になった。

【安倍地域包括支援センター】

佐野委員：安倍地域は本当に広範で、それこそ大変なところだという認識を持っている。先日も玉川の自治会長さんや蕨野の住民の方とか、地域地域で色々な意味で中心になっている方と色々な実状も聞けるかもしれないということで会いに行ってきました。今、一番懸念しているのは、もちろん年配者の活動範囲が年々、自分で動くことが厳しくなっている人が多くなる一方だと。それに対してカバーするようなインフラとかも細くなっているということ、地域全体としてもその辺をなんとかしなければならぬと非常に真剣になっているところだというお話を聞いて、本当にありがたいことだと思って帰ってきた。自然災害が本当に年年歳歳多発し、だんだん酷くなってきているということで、先ほどの内宮地域の水害も一回で終わるのか、今年の台風シーズンにはまた起こるのではないかという心配がある。そういう意味では、一部地域の力だけではどうにもならないようなことがあって、一番大事な命を守ることにどういう手段があるのか。いわゆる地震になぞらえて言えばとにかく揺れたら一目散に高台に逃げろと、とにかくちょっと寄って何か持っていこうとか、あの人もなんて声を掛けている暇がないような厳しい現実がある。水害もとにかく限度を超えた雨が降れば、今のインフラでは簡単に二度三度繰り返すのは当然予想されることで、そういう中で包括としてもどうしていこうかという意味では相談を持ち掛けられていい答えがすぐに返答できない現実はあると思う。そういう意味でこの文言にも書いてあるが、美和、賤機、安倍が共同で北部高齢者支援勉強会を開催しているのは、非常に大事なネットワークで、こういう中で知恵も沸いてくるし、いざというときの最低限の手段としてどうするかということが形になってくるので大事なことだなど。一つ目の質問は、勉強会はどのくらいの頻度でやっているのか教えほしい。

安倍包括：北部地域高齢者支援連絡会（勉強会）と題して、美和、賤機、安倍を合わせた地域を北部地域と言い、ちょうど保健福祉センターの圏域がこの三つの包括になるので、年に1回開催している。今はケアマネジャーが対象だが、ゆくゆくはそれも検討していこうと考えている。実は昨日勉強会を開催した。内容的には、ケアマネジャーから生活保護について知りたいという要望があり、生活支援課に1時間半くらい講義していただいた。アンケートも取り、すごく生活保護について理解ができた、再認識ができたということで、とても良いご意見もいただいている。2回3回とやりたいが他の業務もあるので、今は年1回ということで開催している。

佐野委員：包括は全ての入り口になっている立ち位置なので、年年歳歳仕事の量が増えてきていて、私が住んでいる地域は安西番町包括支援センターだが、業務の様子を窓越しに見ていると本当に夜遅くまで大変苦労してやっていたらっしゃる。例えば、安倍に限って言えば3人、3人でも街中の3人と山間部の3人は人口に比例して人員配置をしているかもしれないが、まったくこれは理にかなってはいない。やはり距離もあるし、一つ一つの課題が街と違う重みもあり、できることならあと2人くらいは最低限、今日も市のどこかの課長がみえているので、耳に入れておいてもらいたいと思う。山間地や田舎という言葉もどうかと思うが、近隣同士の繋がりが非常に強いと言えるが、なんせ高齢化が進む一方で新しく若い人が入ってくるわけではなくて、今いる人がどんどん高齢化していく意味では益々大変になってくる。そのときに新しい目として、自治会長とも話し合っただ中で出てきたこれいいなと思ったのは、いわゆる多職種連携、例えば僕の思い付きで言えば、郵便局や宅配便、この頃、移動スーパーということで小さい車で山の中まで入って販売する人たちと連携を取って情報を得ていく。特に必ず行く郵便局や宅急便の人に何か変化があれば教えてもらえるようなシステムを、自然に構築できているかもしれないが、敢えてしっかりした仕組みを作っていけば、情報としては非常に一本も二本も先んずることができるのではないかと。とにかく大変な中でやっていたらっしゃるので、よくテレビでやっているぽつんと一軒家なんて素晴らしそうに見えるが、ああいう番組をやると本当にどうかかと。あれがいいと瞬間的には思うが。本当に山間地を抱える地域は大変だということを経験していきたいと思っている。

【賤機地域包括支援センター】

佐々木委員：⑦認知症サポーター養成講座は今年で十年弱くらい前になるが、静岡市医師会も手伝ったが、大人の方は段々充足してきているかなと。小中学生とかに負けちゃって、若年者といったらサポーターなのかなと思って。それは具体

的にどの辺にどのぐらいありそうか。

賤機包括：認知症サポーター養成講座で小中学校に行くということを今年度計画を立てている。その前段階として、昨年までまるけあ賤機というチラシを小中学校に配布させていただいて、地区社協の総会などで、校長先生、教頭先生と顔なじみの関係をつくり、そのなかで認知症サポーター養成講座に繋がるような働き掛けをしている。できれば、来年度実施ができればいいと思っている。本年度色々な働き掛けをして繋げていきたいと思う。

佐々木委員：なかなか教育要綱の中の時間の割合のバリアがあると聞いているので、根回しを頑張ってほしい。

紅林委員：私もたまたまコンビニでまるけあ賤機を目にして、嬉しくなって自分でもらってきて、こうやって頑張ってらっしゃるのだと実感した。他の地域包括もあちこちにそういうチラシを置いて頑張っていらっしゃると思うが、どこでどうなるかわからないし、見たときに私達が少しでも知っているものはずごく頑張っているということになって、皆さん頑張ってくださいとのだと本当に感じるので、大変かと思うがぜひ頑張ってほしい。

木村部会長：こちらの包括は昨年度から小学校、中学校を通じて多世代に地域包括支援センターを周知しているので、次の会の実績報告等でまた話をさせていただければと思う。